

需要想定・供給力に関する ご質問への回答について

2023年1月27日
中国電力株式会社

1. 他社への離脱量想定における料金値上げ影響の織り込み

- 当社は需要想定において他社への離脱量を想定する際、料金値上げによる影響は考慮しておりません。
- 当社の値上げを受け、競合会社においては需要獲得を進めることが考えられる一方、燃料価格やJEPXにおける市場価格の高止まりが継続していることから、事業撤退や新規受付の停止をすることも考えられます。
- このため、料金値上げにより他社への離脱が拡大すると確定的には見込めず、離脱の増勢は至近の傾向から変化しないものと想定しました。

2. 島根原子力発電所 2 号機の稼働織り込みによる原価への影響

- 島根原子力発電所 2 号機について、あくまで原価算定上の前提として、残りの審査項目や、長らく停止状態であるユニットを確実に稼働させるために必要な工程を踏まえ、安全対策の実施状況等を総合的に勘案し、再稼働時期を2024年 1 月末としました。
- この影響により、修繕費や減価償却費などの固定費が増加しますが、火力との差し替えによる燃料メリットがこれを上回り、合計▲470億円（率にすると▲3%、単価にすると▲1円/kWh程度）の原価抑制効果があると試算しています。

（参考）島根 2 号機稼働の織り込みによる原価抑制効果（試算）

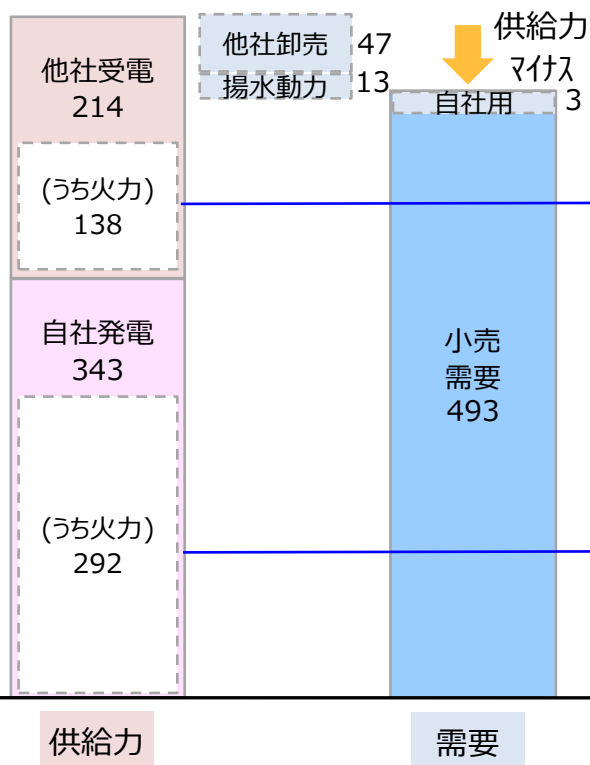
（億円/年）

	影響額	備考（主な内容）
燃料費・購入電力料	▲870	メリットオーダーに基づく火力との差し替えによる減 非化石証書購入費用の減
修繕費	70	稼働前点検および定期点検の織り込みによる増
減価償却費	190	安全対策設備の竣工による増
事業報酬	30	特定固定資産レートベースの増
公租公課	20	固定資産税の増
原子力バックエンド費用	90	使用済燃料再処理等拠出金発電費・特定放射性 廃棄物処分費の増
合 計	▲470	

3. 島根原子力発電所 2 号機の稼働織り込みに伴う供給力等への影響

- 料金原価においては、①島根原子力発電所 2 号機の稼働織り込みを踏まえ、メリットオーダーに基づき自社・他社火力と差し替えた上で、②生じた日々の余力は、原価算定上のスポット市場価格とユニット毎の限界費用単価によるマッチングシミュレーションを実施し、その活用効果を織り込んでおります。

【A.供給計画】
(島根 2 号機稼働未定)



【B.料金原価】
(島根 2 号機稼働を織り込み)

